

調査解析2

PM2.5等の大気汚染物質にかかる移流影響の把握

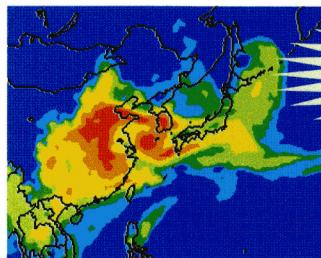
大陸からの越境汚染をはじめ、国内外からの移流が危惧されるPM2.5等の大気汚染物質の現状を把握するため、高濃度時における移流状況を解析し、気象条件等の高濃度要因を特定します。また、窒素等の栄養塩について、大気から琵琶湖流域への沈着量分布の時間的変動と増減要因を解析することにより、大気汚染物質による琵琶湖流域や生態系への影響把握につなげます。

<サブテーマ>

- ・大気汚染物質の移流状況と変動要因の把握
- ・大気降下物による負荷量と変動要因の把握

【現状における課題】

- PM2.5など、
大陸からの越境汚染の危惧。
- PM2.5、オキシダント濃度は
環境基準を達成できていない。
- PM2.5による人への健康影響の懸念。

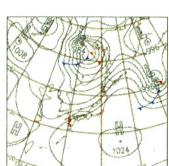
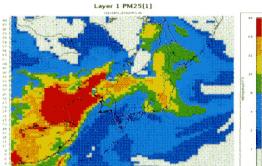


【課題解決に向けた対応】

① 大気汚染物質の移流状況と変動要因の把握

- PM2.5等の高濃度事例について移流状況を把握
- PM2.5等が高濃度となる気象要因を解明

<ミュレーション・流跡線等により移流パターンを分類・解析>

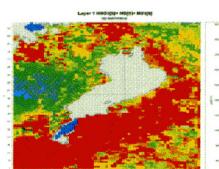


(気象庁HP
より引用)

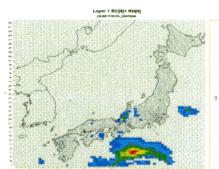
→ 高濃度となる気圧配置パターンや気象要因を推定し、
パターン別に実測した成分の特徴と比較。

② 大気降下物による負荷量と変動要因の把握

- 県内の沈着量分布の時間的変動を把握
- 栄養塩等の沈着量が増減する要因を解明



<乾性降下物(粒子)>



<湿性降下物(雨)>

移流パターン・季節別に比較

雨の降り方による比較

- 大気汚染抑制に必要な対策の基礎データとして活用（発生源推定など）

- 琵琶湖流域における物質循環を捉える基礎データとして活用（大気からの要因・影響）